



農林水産省 近畿農政局 業務説明会

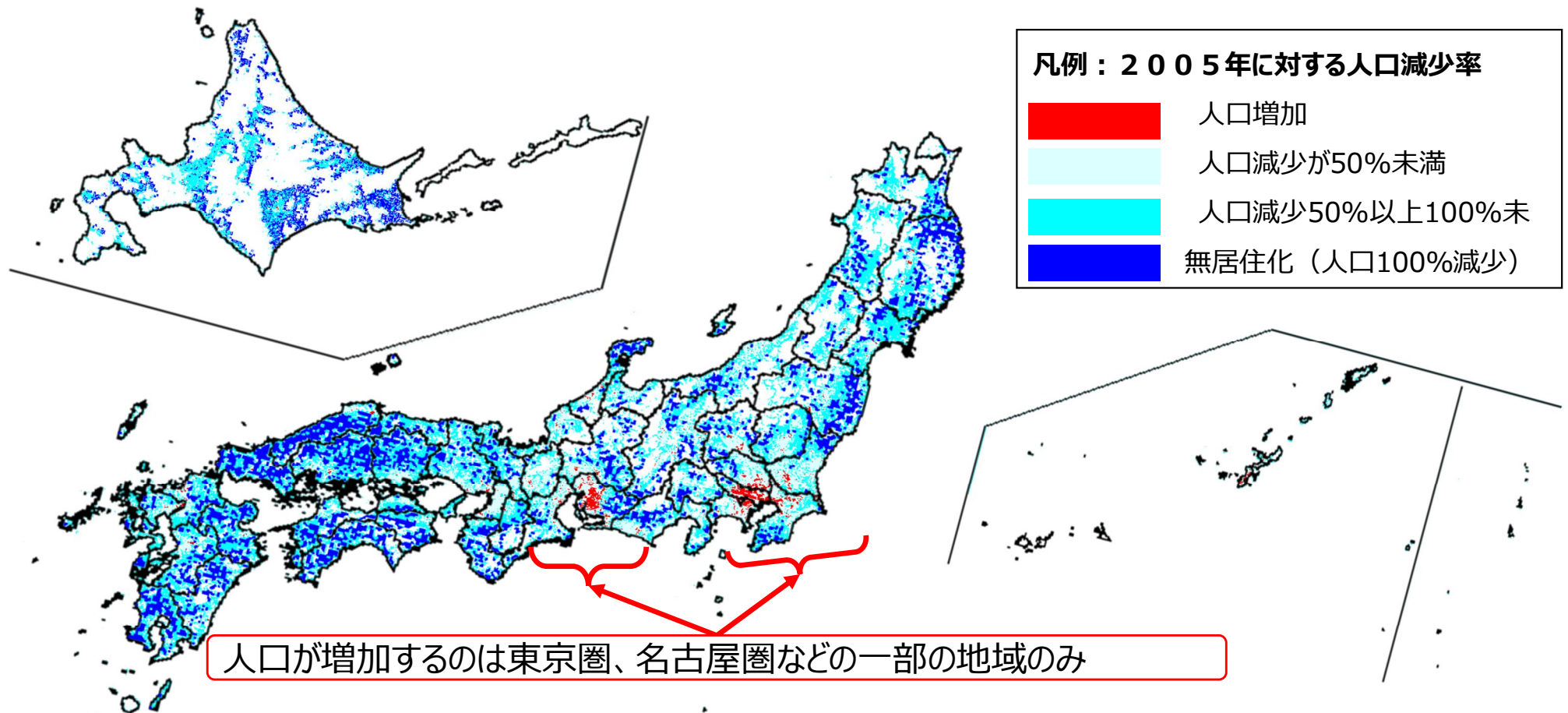
農林水産省
近畿農政局

今日お話すること

1. 農林水産省が取り組む課題
2. 農林水産省のミッション
3. 農林水産省の職場環境
4. 採用案内
5. (参考) 近畿農政局若手職員紹介

日本の課題：人口減少と過疎化

大都市における超低出生率・地方における都市への人口流出
+ 低出生率が日本全体の人口減少につながっている。



資料： H23.2.21 国土審議会政策部会長期展望委員会資料より抜粋改変

・総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土計画局推計値（メッシュ別将来人口）をもとに、コーホートを用い、出生と死亡にかかる「自然増減」及び転出入にかかる純移動の「人口変動要因」のそれぞれについて将来値を仮定し推計。

・2005年を100とした場合の2050年の人口割合を1km²区画でプロット（白色部分は1km²あたり人口がデータ上1人に満たない場合）。

人口減少・過疎化の何が問題なのか

- 人口減少、過疎化は地方だけではなく日本全体の課題

過疎化・人口減少の加速化による**消費・経済力の低下**
(日本の国際的プレゼンス低下)

(地方出身者) 自分が生まれ育った故郷がなくなる喪失感

食料供給機能の低下

※農業産出額のうち大都市近郊県（茨城・千葉・愛知）の割合は約13.7%

※平成29年度生産農業所得統計

多面的機能の低下

※食料供給以外の多面にわたる機能（洪水・土砂崩れ防止などの国土保全機能）

ライフスタイルの制約
→暮らせる田舎、観光資源の喪失

多様な文化の喪失
歴史・自然環境をベースに築いてきた文化的多様性の喪失

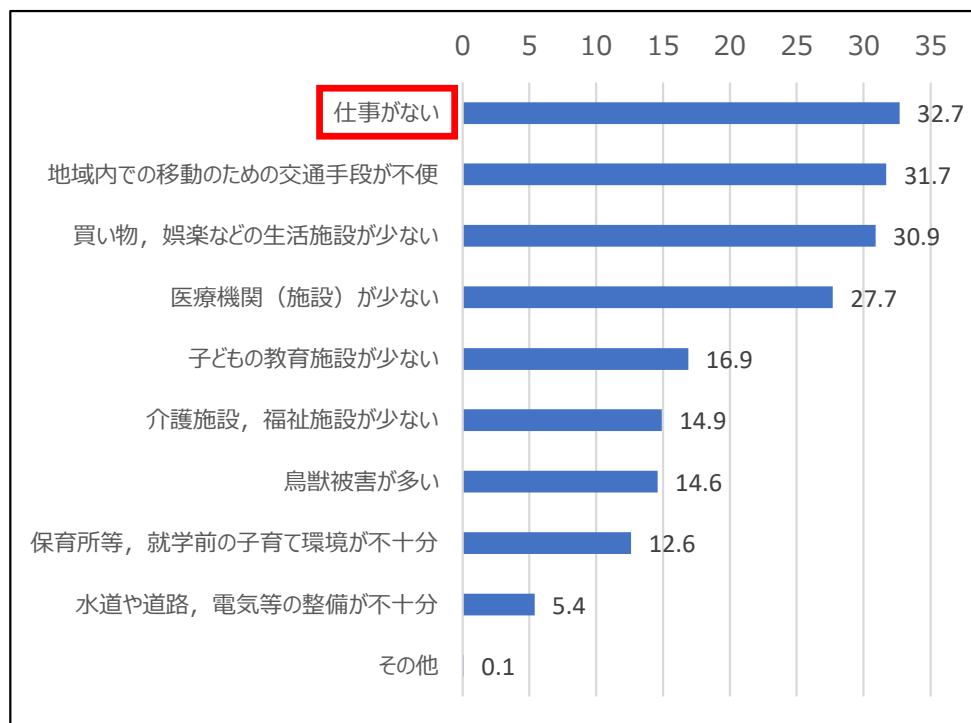
※農業・農村の多面的機能は貨幣価値で算出可能なものだけで年間約8兆円

Photo by (c)Tomo.Yun(<http://www.yunphoto.net>)

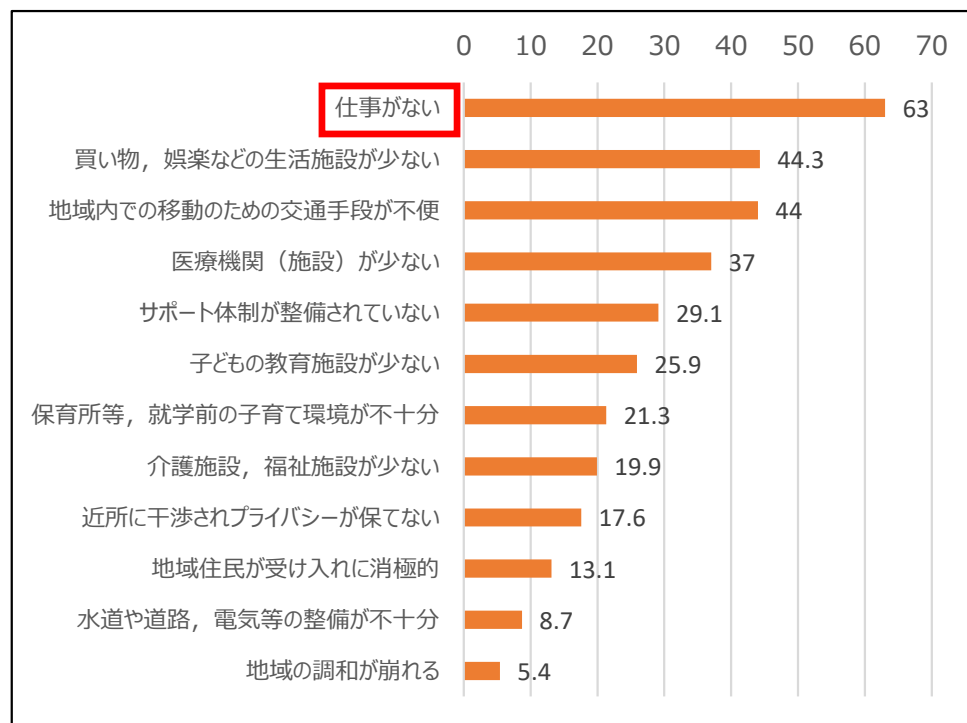
なぜ過疎化するのか

・ 農山漁村地域での生活で困るのは「仕事がない」こと

（農山漁村地域住民に対し）農山漁村地域での生活で困っていることは何か。



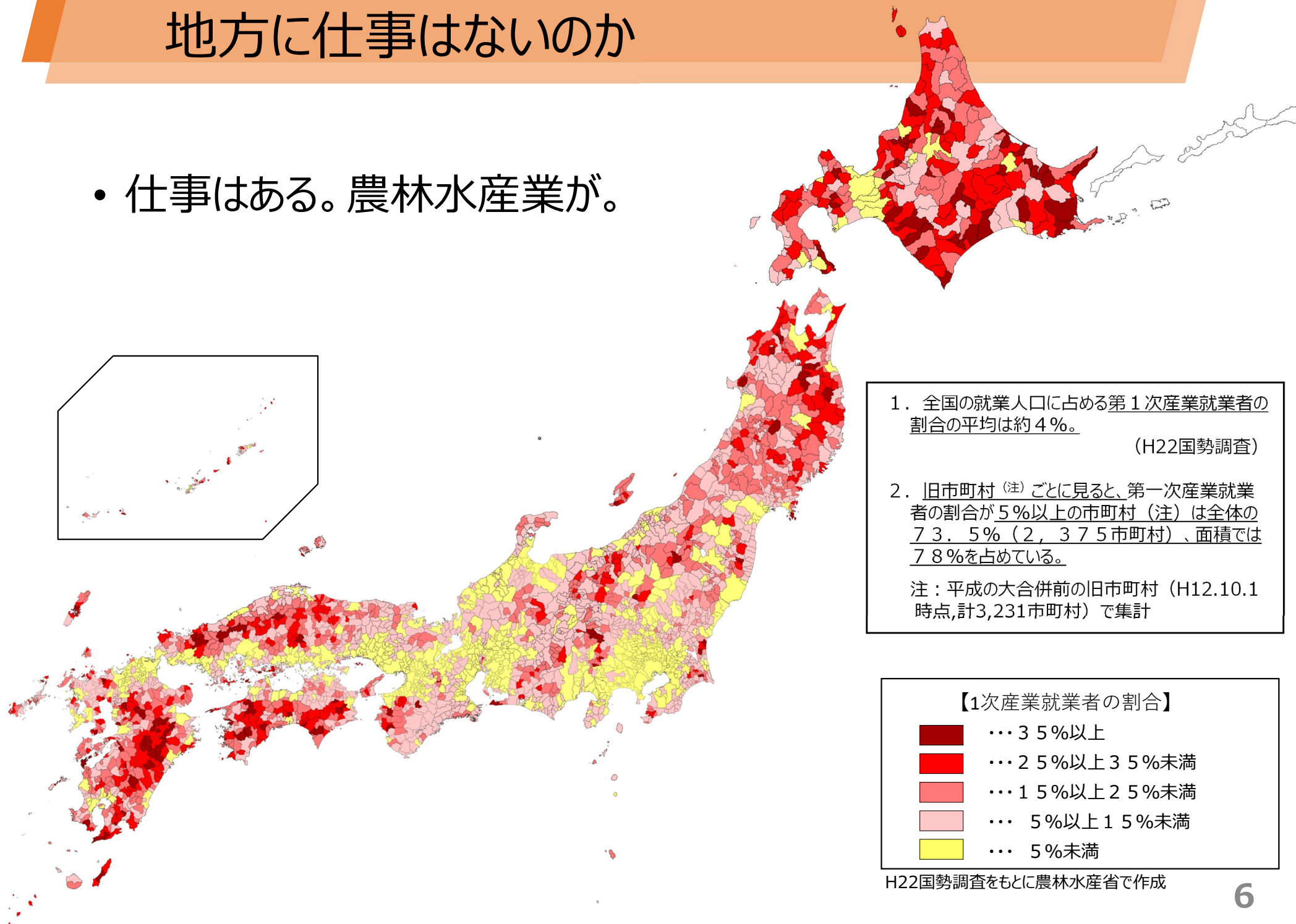
（農山漁村地域住民に対し）都市住民が農山漁村地域に定住する際の問題点は何か。



※資料：平成26年6月農山漁村に関する世論調査（内閣府）
※それぞれ複数回答可、総回答者数700人

地方に仕事はないのか

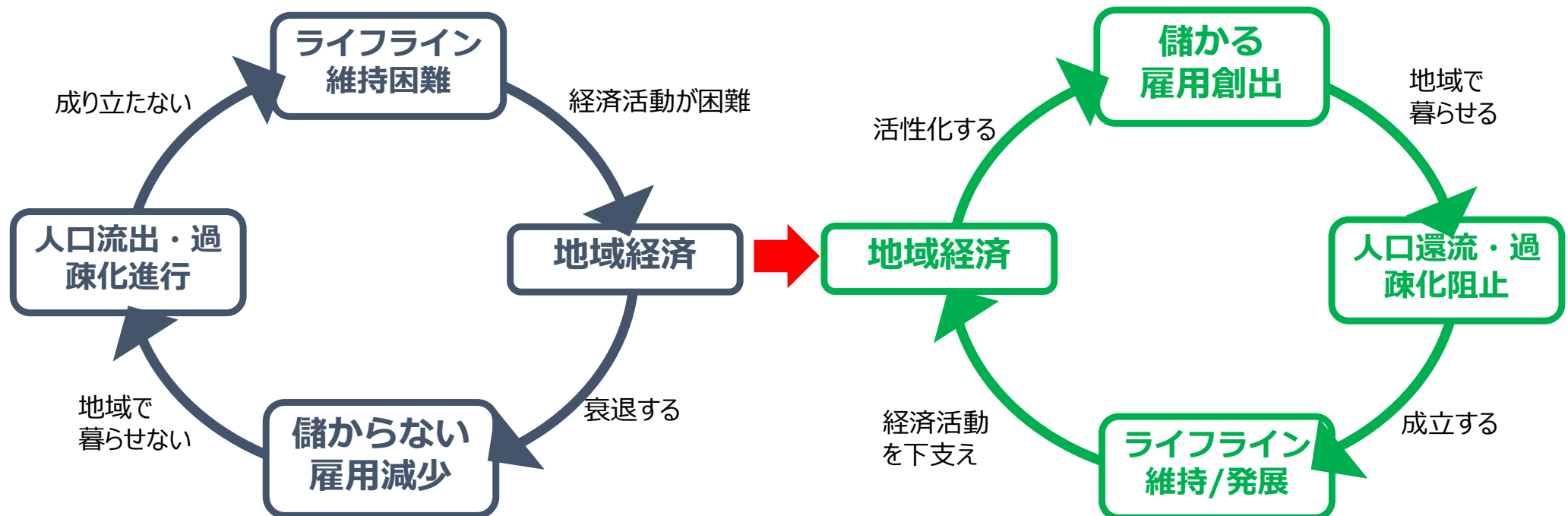
- 仕事はある。農林水産業が。



問題は、魅力的な就業先ではないこと

- 問題は、地方の主要産業である農林水産業（及び食品関連産業）が、地方居住者の魅力的な就業先として機能していないこと。

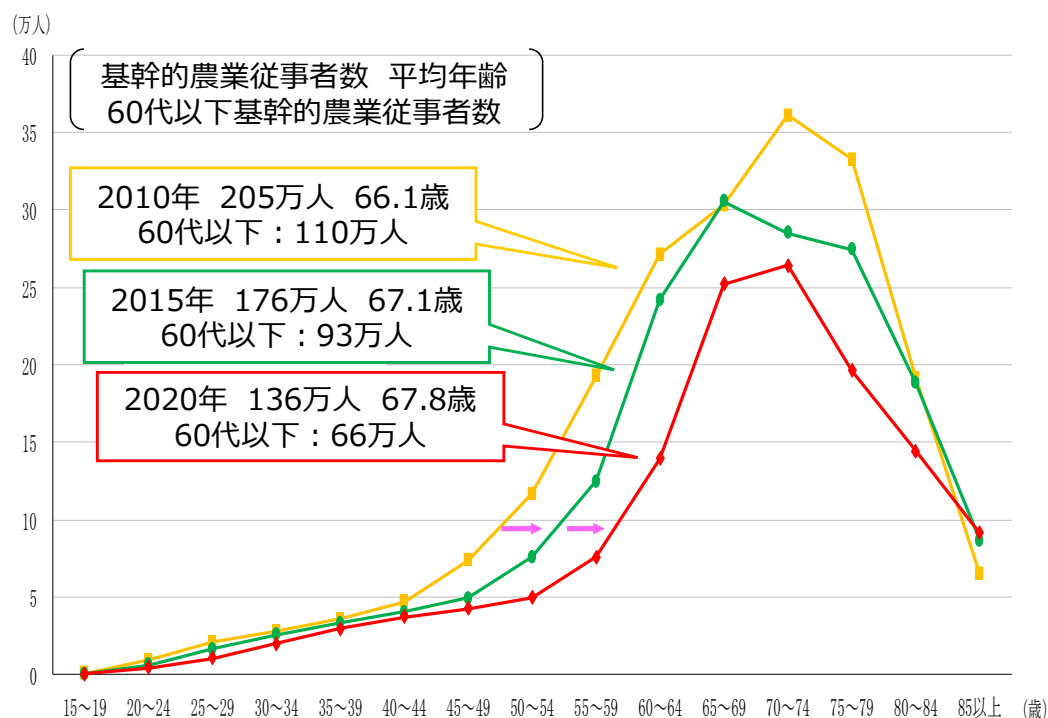
➡ 儲かっていない・十分な雇用を確保できない



農林水産業の課題：高齢化

平均年齢67.8歳。高齢化が主要国と比較しても突出。
持続的に産業として発展させるためには、若年層の参入が必要。

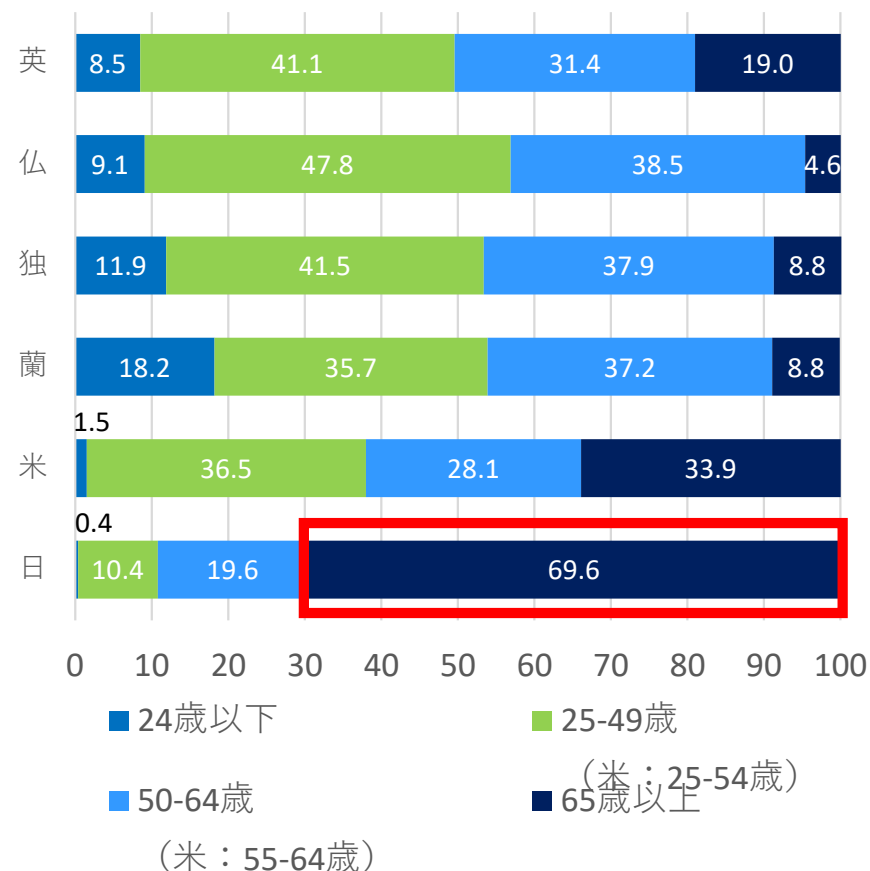
○基幹的農業従事者の年齢構成



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

基幹的農業従事者とは、農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員)のうち、
ふだんの仕事として主に自営農業に従事している者

○各国の農業従事者の年齢構成

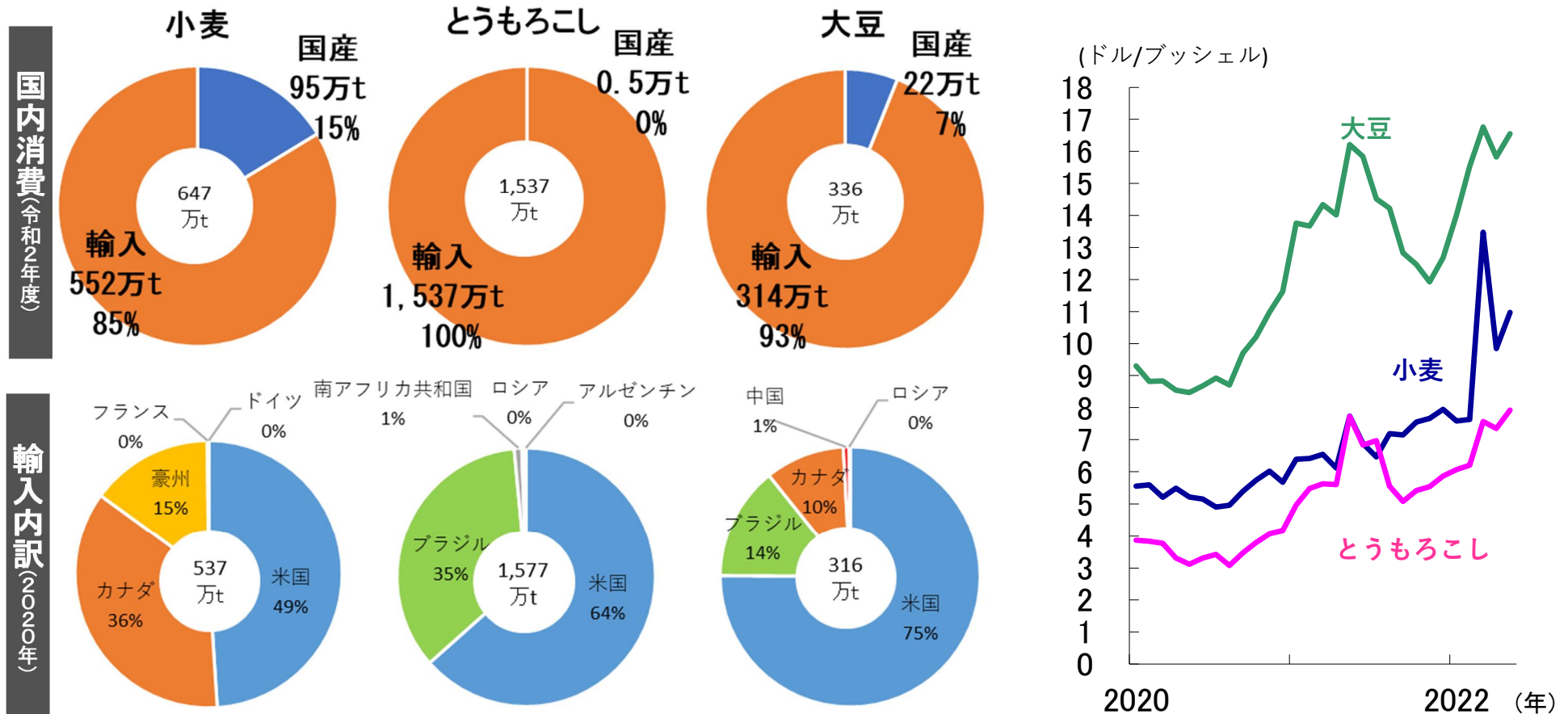


【資料】

英は、EUROSTAT (2019) : 農業に従事した世帯員
仏独蘭は、EUROSTAT (2020) : 農業に従事した世帯員
米は、米国農務省「2017年農業センサス」
日：農業に従事した世帯員
日は、農林水産省「農林業センサス」(令和2年)
：基幹的農業従事者

日本の食の課題：輸入だけで大丈夫？

米以外の穀物は大きく輸入に頼っている。一方で、気候変動や新興国の輸入需要の増加、ウクライナ情勢により、相場は高騰



注1：主な用途は、小麦は食糧用、とうもろこしは飼料用、大豆は油糧用である。

注2：国内消費は、農林水産省「食料需給表」（令和2年度）、国産とうもろこし（飼料用のみ）の値は農林水産省調べ（令和2年度）。

輸入内訳は、財務省「貿易統計」（2020年）を基に農林水産省にて作成。

注3：小数点以下四捨五入のため、合計値が合わない場合がある。

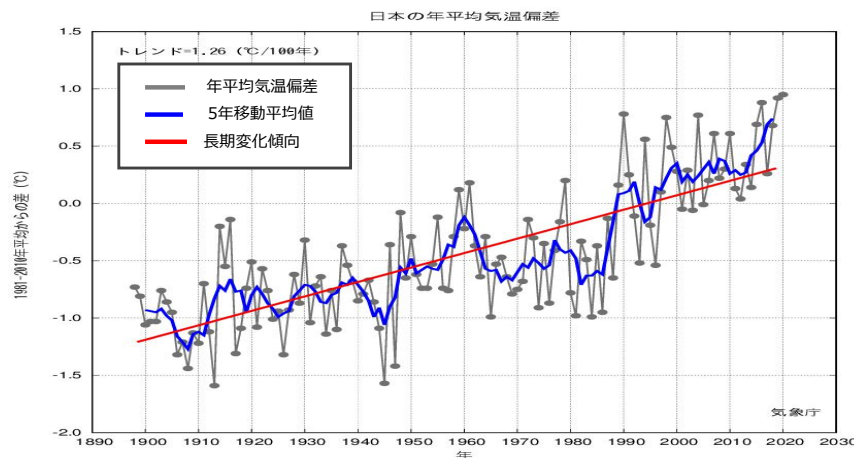
注4：単純化のため輸出、在庫分は捨象し、国内消費＝国内生産＋輸入と仮定。

注5：国内消費における国産、輸入については、食料自給率算定方法に従い、加工品も原料換算して含めた（例：ビスケットに含まれる小麦分を小麦としてカウント）値としている一方、輸入内訳については、加工品の原料分は含まない値である。

日本の食の課題：地球環境の変化

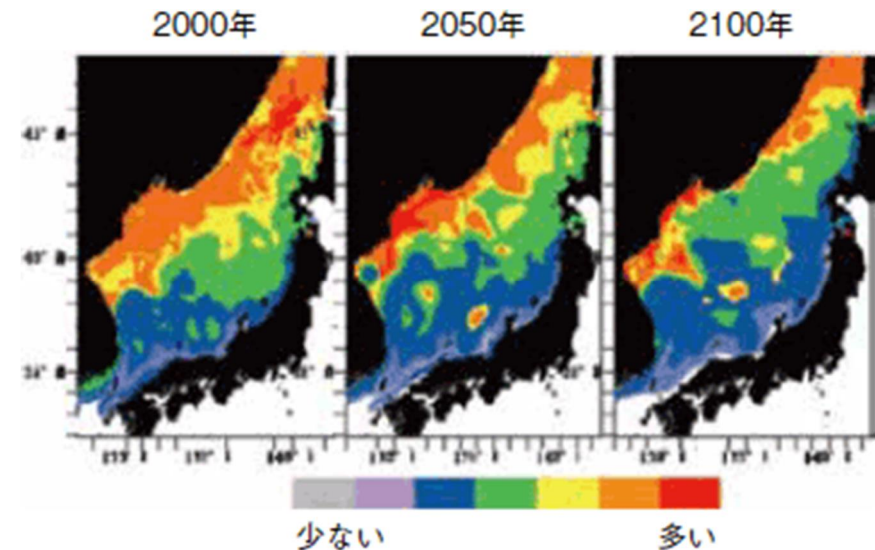
- 日本の年平均気温は、**100年あたり1.26℃**の割合で上昇。
2020年の日本の年平均気温は、統計を開始した1898年以降**最も高い値**。
- 農林水産業は気候変動の影響を受けやすく高温による**品質低下**などが発生。

■ 日本の年平均気温偏差の経年変化



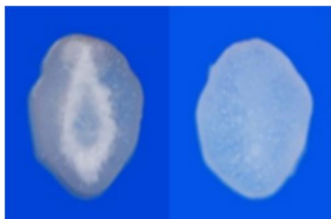
年平均気温は長期的に上昇しており、特に1990年以降、高温となる年が頻出

■ 温暖化による水温予測結果を用いたスルメイカの分布密度予測図



■ 農業分野への気候変動の影響

- ・ 水稻：高温による品質の低下
- ・ リンゴ：成熟期の着色不良・着色遅延



白未熟粒(左)と正常粒(右)の断面



今日お話すること

1. 農林水産省が取り組む課題
2. 農林水産省のミッション
3. 農林水産省の職場環境
4. 採用案内
5. (参考) 近畿農政局若手職員紹介

農林水産省は何のために存在しているか

- 農林水産省ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、

常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

ビジョン

ミッション

農林水産省は何のために存在しているか

- 生命を支える「食」

→生命の維持・健康で充実した人生
のために必要不可欠な**食料**
生産現場から消費者の口に入るまで



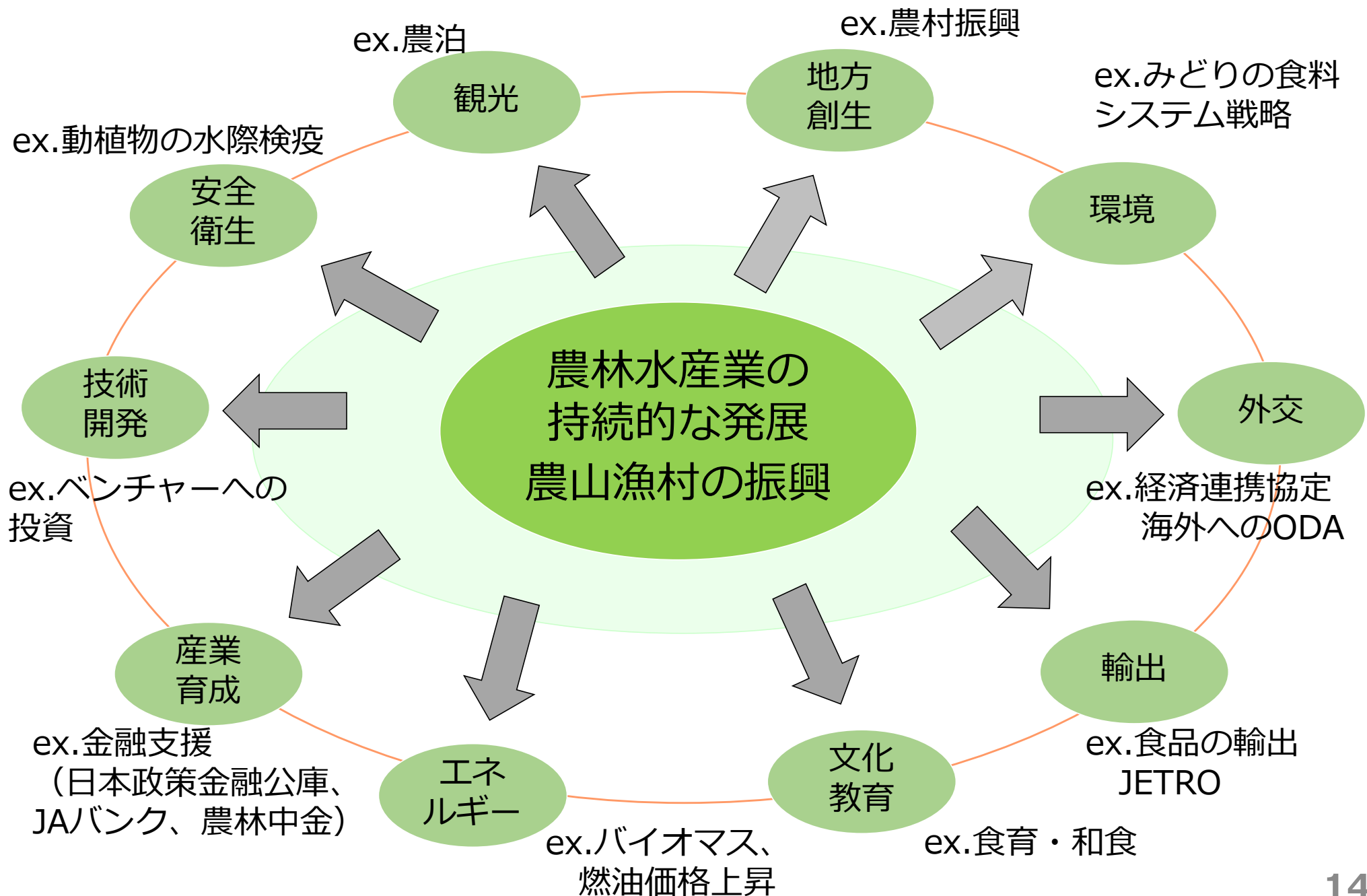
- 安心して暮らせる「環境」

→農林水産業・農山漁村の**多面的機能**
(国土の保全・防災、自然環境の保全、
良好な景観の形成、食文化・伝統芸能の伝承)
農林水産業を中心に営まれる**コミュニティ**
食を通じた**豊かな暮らし**



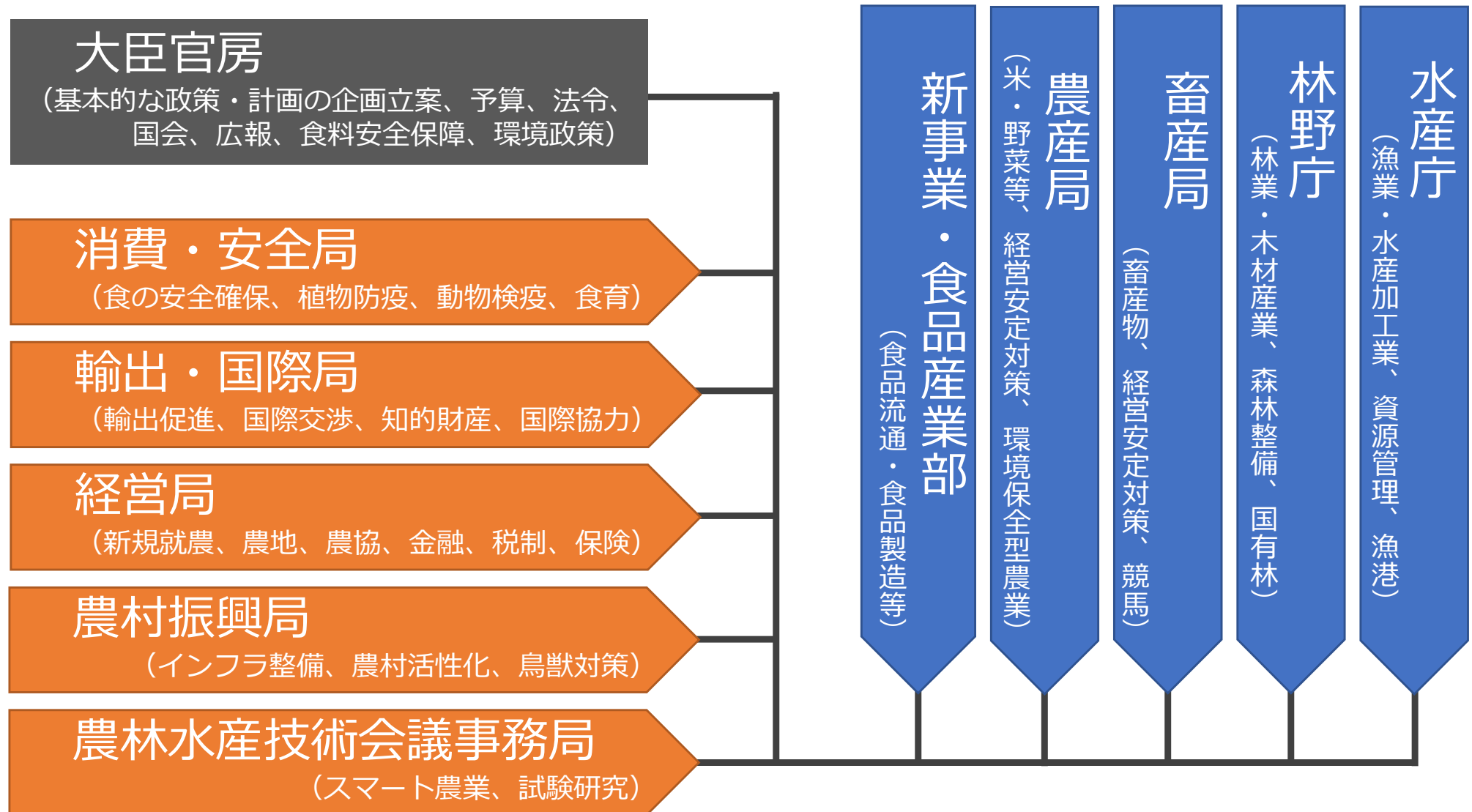
→それを今の私たちだけでなく、**未来にわたって受け継いでいく**

1次産業を核とした多様なフィールドと、 豊富なツール



農林水産省の組織

それぞれの**品目**（米、肉、魚など）の産業振興を行いながら【縦軸】、
全ての品目に**共通する課題**（環境、防疫、国際交渉、新規就農、インフラ整備など）
については、品目横断的に政策を打ち出しています【横軸】。

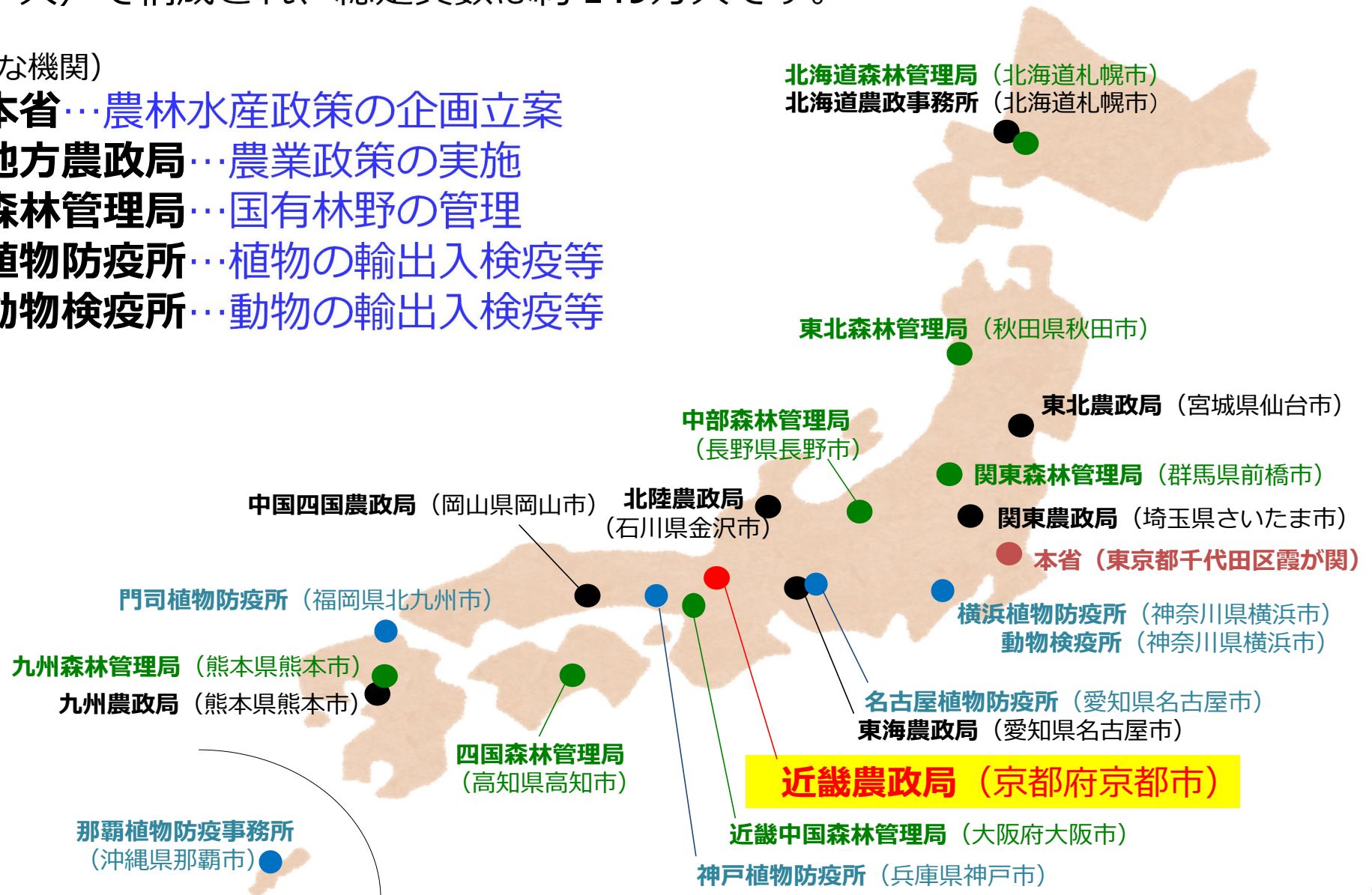


農林水産省の組織

▼農林水産省は、本省（約5千人）と全国の各地方ブロック機関（約1万4千人）で構成され、総定員数は約1.9万人です。

（主な機関）

- ・ **本省**…農林水産政策の企画立案
- ・ **地方農政局**…農業政策の実施
- ・ **森林管理局**…国有林野の管理
- ・ **植物防疫所**…植物の輸出入検疫等
- ・ **動物検疫所**…動物の輸出入検疫等



近畿農政局の組織

組 織 図

近畿農政局

局 長

次 長

次 長

地方参事官

企画調整室

総務管理官

消費・安全部

生産部

経営・事業支援部

農村振興部

統計部

- ・京都府拠点
- ・滋賀県拠点
- ・大阪府拠点
- ・兵庫県拠点
- ・奈良県拠点
- ・和歌山県拠点

- ・淀川水系土地改良調査管理事務所
加古川水系広域農業水利施設総合管理所
川代ダム管理所
鴨川・大川瀬ダム管理所
嵯峨ダム管理所
湖北支所

- ・南近畿土地改良調査管理事務所
大迫ダム管理所
津風呂ダム管理所

- ・土地改良技術事務所

- ・湖東平野農業水利事業所

- ・東条川二期農業水利事業所

- ・亀岡中部農地整備事業所

- ・和歌山平野農地防災事業所

近畿農政局管内機関位置図

(令和5年4月1日現在)

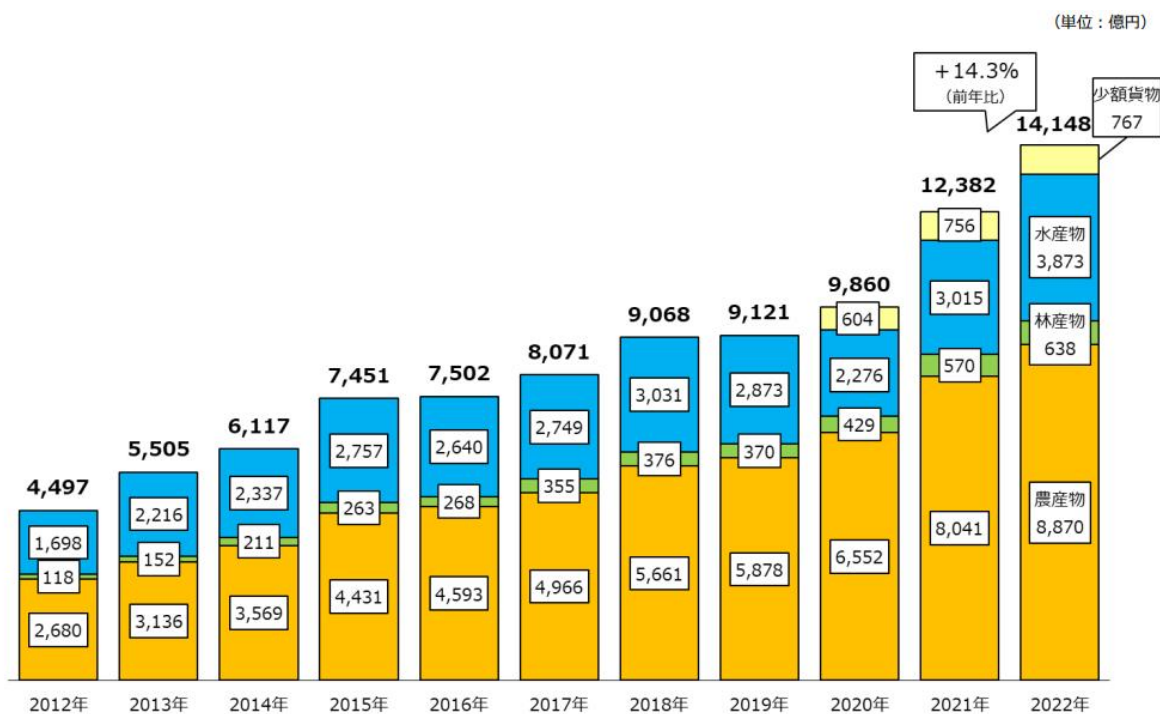


農林水産業の持続的な発展：輸出促進

近年急速に増加。2021年 1 兆円目標を突破！
2030年輸出額 5 兆円の目標達成を目指す。

○農林水産物・食品の輸出額

(単位：億円)



※財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○諸外国の農産物・食品の輸出割合

(億ドル)

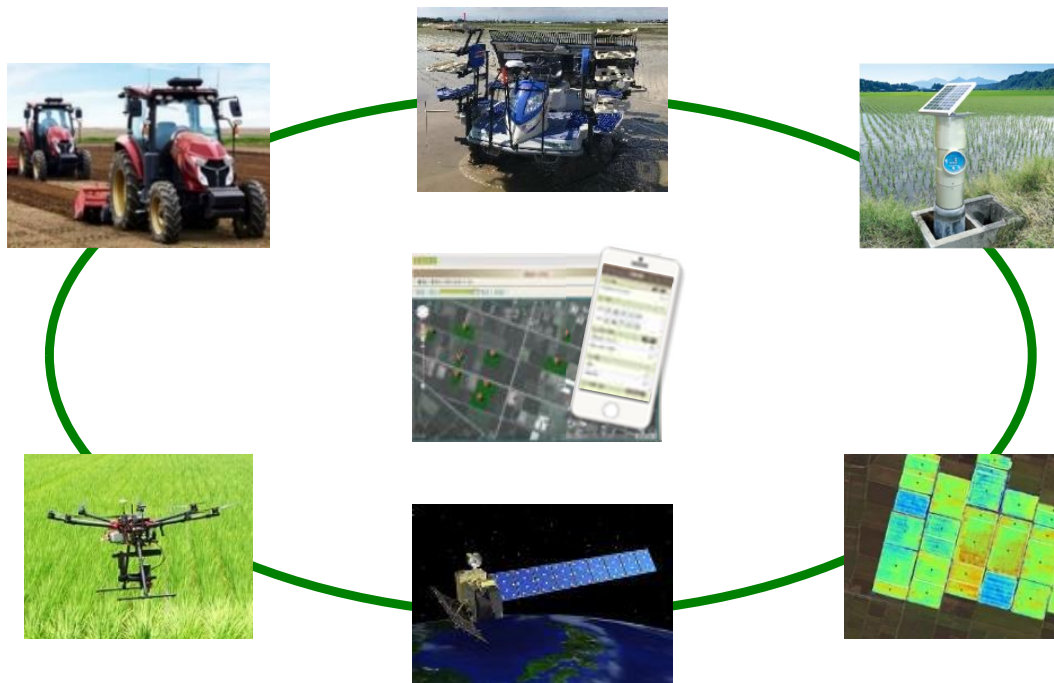
国名	生産額 (農産物・ 食品製造業)	輸出額 (農産物・ 加工食品)	輸出割合
アメリカ	12,335	1,442	12%
フランス	2,591	730	28%
イタリア	2,302	485	21%
イギリス	1,548	286	18%
オランダ	1,066	1,018	95%
日本	4,725	84	2%

注：日本以外の諸外国の林業・漁業生産額については、比較可能な統計がないことから、生産額、輸出額とも含めていない。日本のみ農林水産物として算出。

資料：FAOSTAT, 三井物産戦略研究所, Global Trade Atlas, 生産農業所得統計, 工業統計, 林業産出額, 漁業産出額, 農業・食料関連産業の経済計算

農林水産業の持続的な発展：テクノロジー活用

- AIやロボット等を活用し、生産性の向上を図る



スマート農業の効果

- ① **作業の自動化**
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に
- ② **情報共有の簡易化**
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③ **データの活用**
ドローン・衛星によるデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に

農林水産業の持続的な発展：みどりの食料システム戦略

みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画



「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大



「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

**農林水産業や地域の将来も
見据えた持続可能な
食料システムの構築が急務**

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

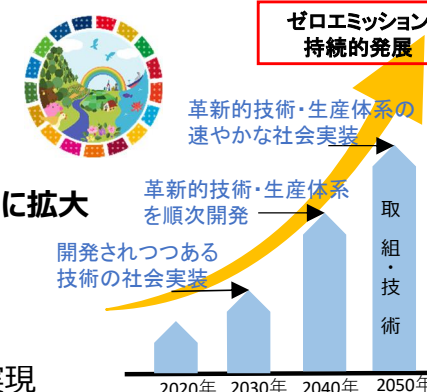
目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

戦略的な取組方向

- 2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）
- ※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。
2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。
- ※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。
地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。



期待される効果

経済

持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会

国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

環境

将来にわたり安心して 暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

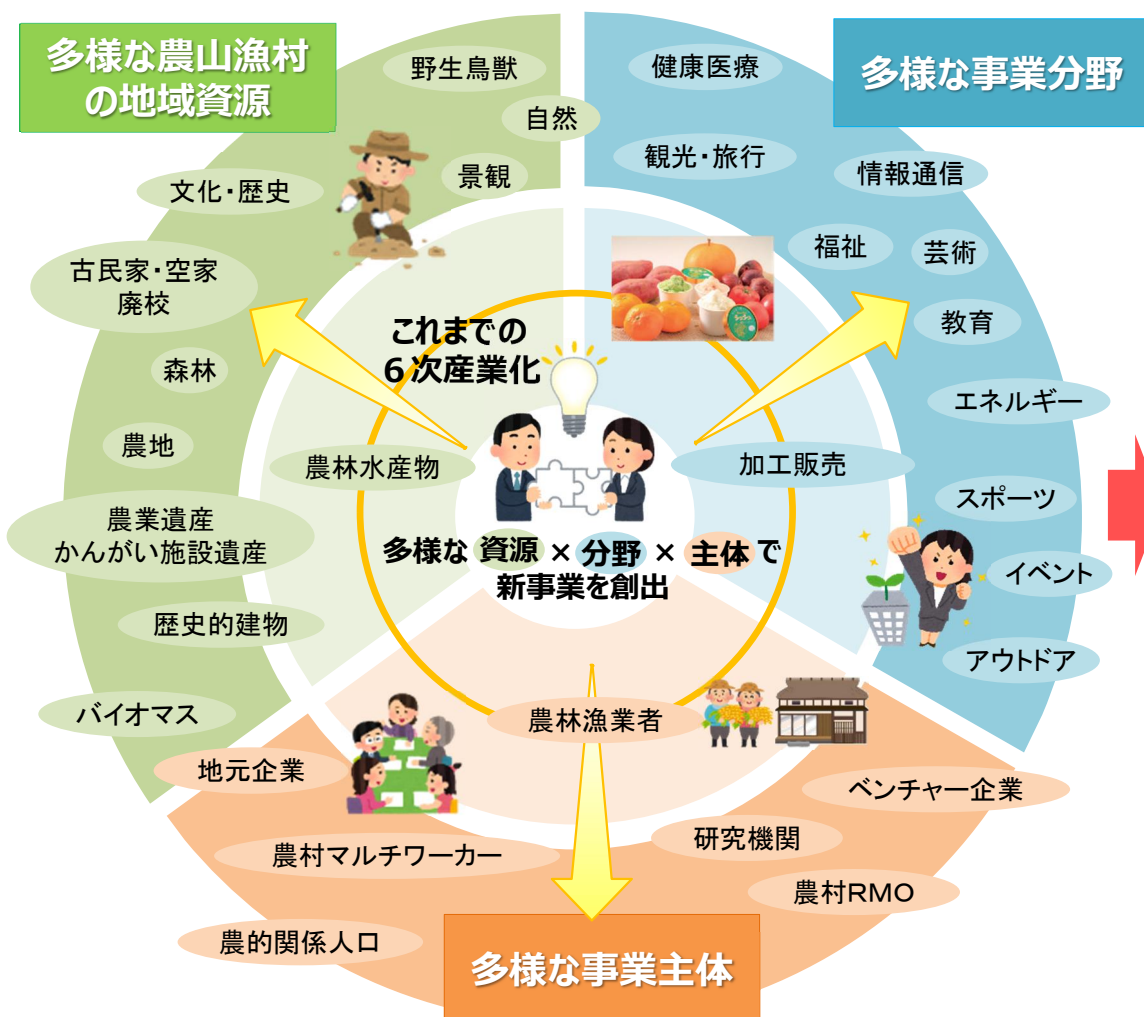
農山漁村発イノベーションによる雇用・所得の創出

- 「農山漁村発イノベーション」とは、従来の6次産業化を発展させて、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の**多様な地域資源**も活用し、農林漁業者はもちろん、地元の企業なども含めた**多様な主体**の参画によって**新事業**や**付加価値の創出**を図る取組です。

農山漁村発イノベーション

- 農山漁村の**あらゆる地域資源**をフル活用した取組を支援
- 他産業起点の取組など**他分野**との連携を一層促進

地域資源と事業分野、事業主体
を組み合わせ、**新事業や付加価値を創出**



<例 1>

農産物、景観 × 加工販売、観光・旅行
× 農林漁業者、地元企業
= **竹林景観を活かした映画のロケ地や観光商品化**

<例 2>

森林 × スポーツ × ベンチャー企業
= **森林サバイバルゲーム**

<例 3>

農産物 × 加工販売、観光旅行、教育
× 農林漁業者、地元企業
= **農業交流拠点を核とした6次産業化、食育体験**

<例 4>

森林 × 観光・旅行、健康医療
× 農林漁業者、地元企業
= **森林セラピー**

<例 5>

農業遺産、文化・歴史 × 加工販売、観光・旅行
× 協議会（農林漁業者、地元企業等）
= **農業遺産を核とした6次産業化、観光振興**

「デジ活」中山間地域について

- 「デジ活」中山間地域とは、地域の基幹産業である農林水産業を軸として、地域資源やAI、ICT等のデジタル技術の活用により、課題解決に向けて取組を積み重ねることで、活性化を図る地域づくりを目指す地域。
- こういった地域で活動する意欲的な農村型地域運営組織（農村RMO）等 ※）に対して、関係府省連携チームでサポート。

中山間地域におけるデジ活のイメージ

農林水産業

【地域の課題】

- 一次産業従事者の減少、高齢化
- 省力化、効率化



- 省力化のためのスマート農林水産業の導入
- 農地の環境維持の負担軽減のための自動草刈り機導入
- ICTを活用したスマート鳥獣対策

基幹産業を軸として
+
デジタル技術を活用

交通、物流

【地域の課題】

- 公共交通の確保
- 物流の効率化



- 交通空白地帯の解消や利便性の向上に向けて、MaaSの活用、貨客混載バス、ドローンによるラストワンマイル配送

地域資源活用

【地域の課題】

- 付加価値の向上
- 観光等域外からの訪問の促進



- ICTを活用し、農産物の需要に応じた集出荷
- デジタル環境の整備により、農泊地域での新たな需要の開拓

くらし

【地域の課題】

- 情報格差の解消
- 高齢者の買物支援



- ICTを活用した地域情報網の構築、高齢者の買物支援や見守り

関係府省連携チームでサポート

（関連施策一覧の公表、課題に対する施策の紹介、申請相談等）

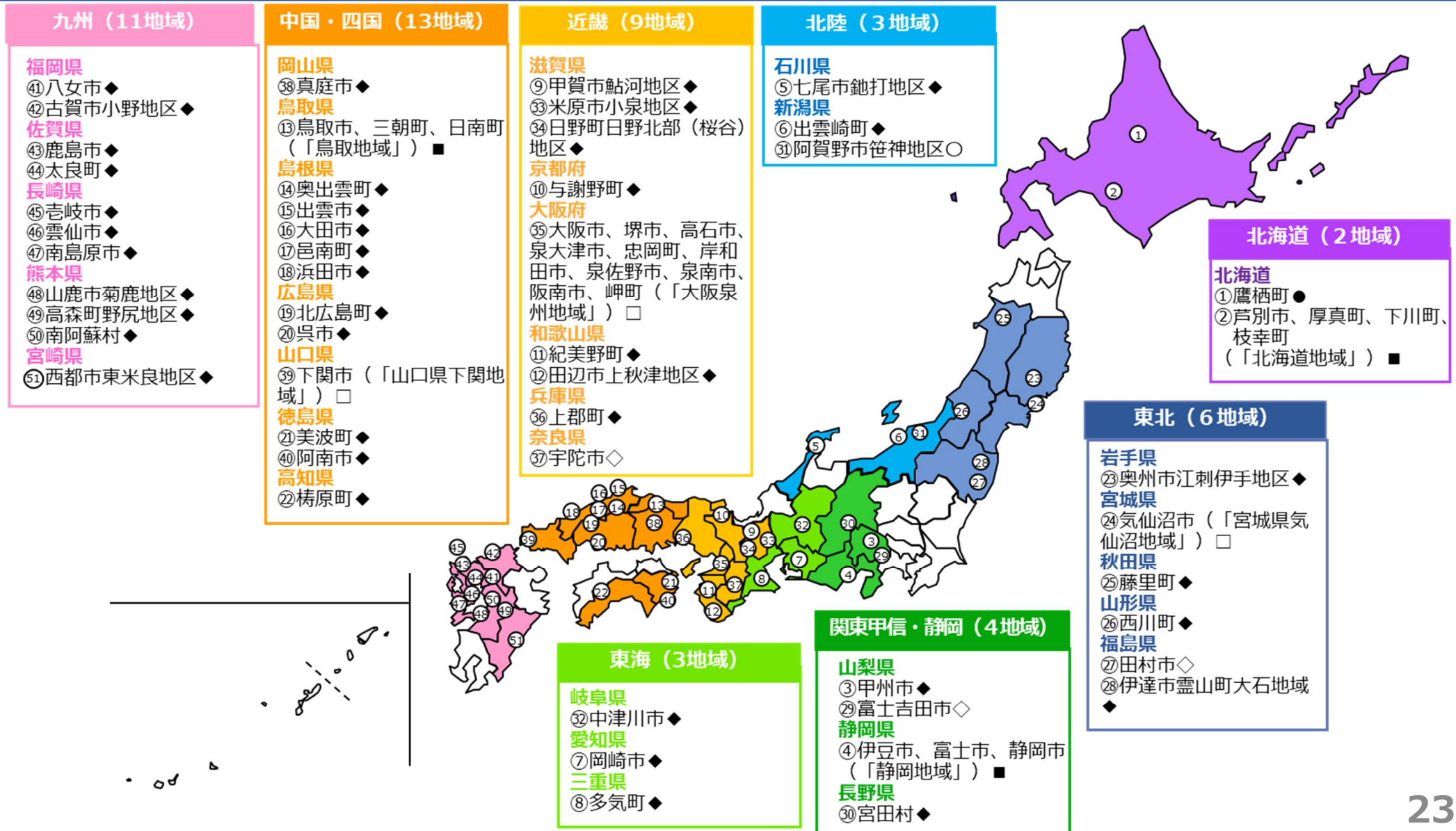
※農村型地域運営組織モデル形成支援、元気な地域創出モデル支援、過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業、デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ：小さな拠点）、デジタル林業戦略拠点構築推進事業、デジタル水産業戦略拠点整備推進事業、無人航空機等を活用したラストワンマイル配送実証事業、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転実証調査事業）から応募

「デジ活」中山間地域の登録状況

32道府県51地域 (2023年10月13日時点)

デジタル田園都市国家構想総合戦略におけるKPI：2027年度までに150地域登録

●デジタル田園都市国家構想交付金：1地域、○過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業：1地域、◆農山漁村振興交付金事業：40地域、
■デジタル林業戦略拠点構築推進事業：3地域、□デジタル水産業戦略拠点整備推進事業：3地域、◇地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転実証調査事業）：3地域



今日お話すること

1. 農林水産省が取り組む課題
2. 農林水産省のミッション
3. 農林水産省の職場環境
4. 採用案内
5. (参考) 近畿農政局若手職員紹介

人材育成・研修

現場を知る

○ 新規採用者研修

入省1年目の職員を対象に4月に合宿形式により行われます。公務員としての心構えや農林水産行政の基礎知識を講義形式で学ぶ【高尾コース】と、ほ場での実習や先進的な生産現場における現地研修を行う【つくばコース】の2本立てで実施しています。



○ 農村・企業派遣研修

農業体験や現場の声を聴くことを通じて農業・農村の現場を肌で感じることを目的とします。入省2年目の職員を対象に、近畿圏内各地の農家の元に5日間派遣し、農業者の生活に密着し、農作業体験の充実を図ります。



能力を高める

○ 実務能力向上研修

農林水産行政を担うに当たり、現場の声を踏まえた施策を企画・推進するため、管内各部の幹部による講演や、外部講師を招いた講演などを行っています。

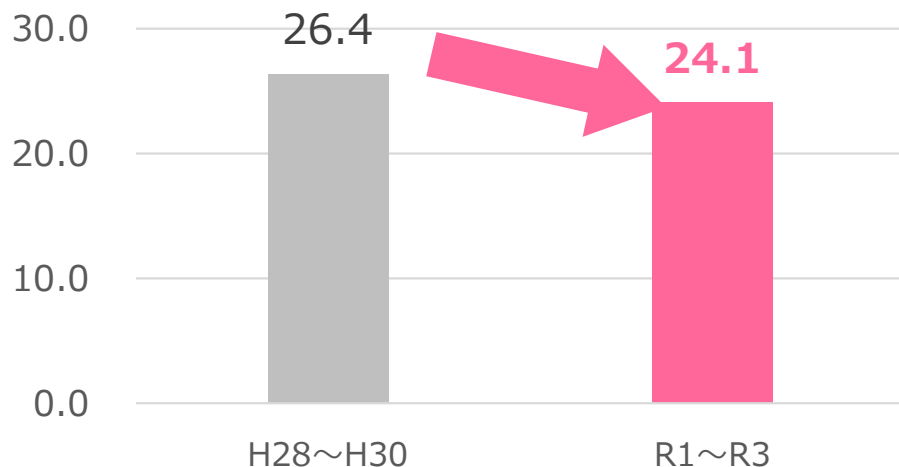
また、現場においてふさわしい礼儀作法を身につけることを目的に、ビジネスマナー研修も実施しています。



職員の働き方（働き方改革）

○ 超過勤務時間は減少傾向

（時間/月）



出典：農林水産省HPを基に作成

○ 職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

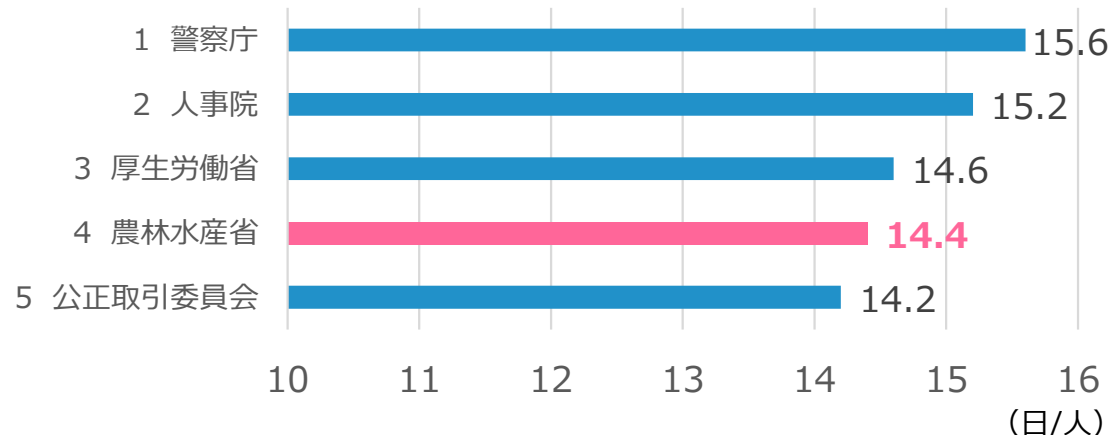
本省 （常勤職員）	25.0時間
地方機関 （常勤職員）	6.5時間
合 計	11.1時間

※令和3年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。
出典：農林水産省HP

○ 休暇取得

一人当たりの年次休暇取得日数は、**全省庁で4番目**

年次休暇取得日数（国家公務員（行政））



出典：内閣府男女共同参画局 女性活躍推進法「見える化」サイト

○ 多様な働き方～テレワーク等～

- ・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
- ・令和2年度実績では、**テレワークの実施回数**が多い府省（本省）で農林水産省は**全省庁で3番目**（国家公務員テレワーク取組状況等調査より）。

働き方改革
キャラクター



省内の働き方改革などを進めています

男女ともに、子育てしながら働くのが当たり前の職場です。

育休取得率

男性：81.3%、女性：102.7%

(参考)

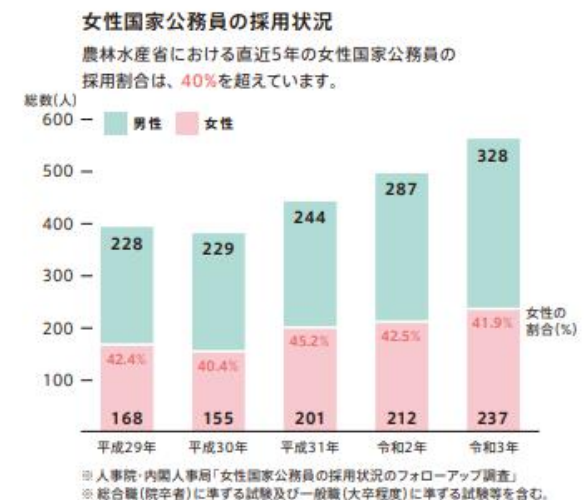
総務省	男：70.6%、女：100%
外務省	男：41.9%、女：96.8%
文科省	男：32.1%、女：86.7%
厚労省	男：92.5%、女：98.5%
経産省	男：67.0%、女：106.7%
国交省	男：66.6%、女：98.0%
財務省	男：80.5%、女：97.9%

出典：仕事と家庭の両立支援関係制度の利用状況調査（令和4年度）の結果について（人事院）

農林水産省に併設された保育園



農林水産省の採用者に占める女性の割合



今日お話すること

1. 農林水産省が取り組む課題
2. 農林水産省のミッション
3. 農林水産省の職場環境
4. 採用案内
5. (参考) 近畿農政局若手職員紹介

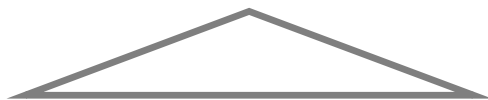
キャリアパス【一般職係長級（事務系）】

- ▼ 国家公務員採用一般職試験合格者（係長級）相当での採用となります。
- ▼ 近畿農政局管内（2府4県）での異動が基本となります。
本局のほか、府県拠点や事業所での勤務があります。
- ▼ 本人希望を踏まえつつ、おおむね2年程度での異動となります。
様々なポストを経験し、自分にあった分野のスペシャリストを目指していただきます。
- ▼ 定年年齢は現在61歳ですが、段階的に引き上げられ令和13年度に65歳となります。

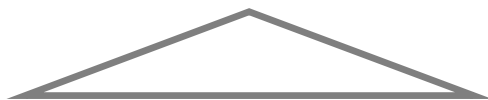
地方農政局の管理職



課長補佐



係長（今回の試験の募集対象）



係員

近畿農政局の配属例

・食品表示監視等



(近畿農政局消費・安全部)

- ・食品表示等についての監視、疑義情報受付
立入検査など

・農地関係業務

(近畿農政局経営・事業支援部)

- ・担い手への農地集積・集約化の加速化
(府県の取組のフォローアップなど)

・輸出関係業務



(近畿農政局経営・事業支援部輸出促進課)

- ・農林水産物及び食品の輸出に関する相談
受付、情報提供
- ・輸出証明書の審査・発行
- ・地理的表示（GI）産品の登録に向けた
手続き

・農山漁村の活性化



(近畿農政局農村振興部)

- ・農山漁村が持つ豊かな地域資源を活用
した新事業や付加価値の創出、観光・
福祉・教育等と連携した取組等への支援
(農泊、農福連携)

・企画・広報業務



(近畿農政局企画調整室)

- ・局の窓口として、外部からの依頼等を
適切な部署に振り分け、局内の円滑な
業務遂行に貢献する。
- ・近畿農政局のHPの運営に関する事務
を行う。

・予算・会計業務



(近畿農政局会計課)

- ・事務費の所要額を精査し、本省を通じて
て予算要求を行う。
- ・予算が、適切に執行されるようその執行
状況を管理する。
- ・会計検査院の行う検査に関する連絡調整
に関する事務を行う。

・人事・採用業務



(近畿農政局総務課人事第1係)

- ・人事異動に伴う辞令を作成、農林水産省
本省や他の地方農政局との人事交流の連絡
等を行う。
- ・新規採用に向けた業務説明会の企画や、
開催に際しての連絡・調整業務、
官庁訪問等の採用事務を実施する。

若手がどんどん行動しています

• BUZZ MAFF

【設立】2020年1月7日

【チャンネル登録者】17.4万人

農林水産省職員自らが、YouTuberとなり担当業務にとらわれず、**スキルや個性**を活かして、農林水産省や日本の農林水産業の魅力を発信するプロジェクト。

省内公募で選ばれたチームが日替わりで発信しています。

近畿農政局では、局内の若手職員を中心としたチーム「**となりの近畿**」を結成し、近畿農業の魅力を発信しています。



BUZZMAFF ばずまふ（農林水産省）

@BUZZMAFF・チャンネル登録者数 17.4万人・1535本の動画

農林水産省職員が、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良...

チャンネル登録



農林水産省の魅力

大きな転換期にある社会課題（食・農林水産業）に
幅広いフィールドで確かな貢献ができる。

転換期にある 農林水産業

- ・ 今、農林水産業は課題が山積している
- ・ ここから10年、20年で農林水産業は大きく変わる
- ・ いつの時代になっても、食と環境を守る仕事は決してなくなる

確かな貢献

- ・ 産業（農林水産業、食品産業）を所管するからこそ、具体的な貢献ができる
- ・ 食という身近なものに関われる
- ・ ピンチの今だからこそ、若手がチャレンジして変革を起こせる

幅広いフィールド

- ・ 1次産業を中心とした多様なフィールド
- ・ 実際に世の中を動かせる豊富なツール
- ・ ローカルからグローバルまで幅広い活躍の場がある

農林水産省の求める人材

1. 公務に対する強い関心と、全体の奉仕者として働く熱意を有する者
2. 課題を解決できる論理的な思考力、判断力及び表現力を有する者
3. 適切かつ効果的に対人折衝・調整を行うことのできる能力を有する者
4. 職務経験を通じて体得した効率的かつ機動的な業務遂行の手法その他の知識及び能力を有する者
5. 採用後の研修又は職務経験を通じてその知識及び能力の向上が見込まれる資質を有する者

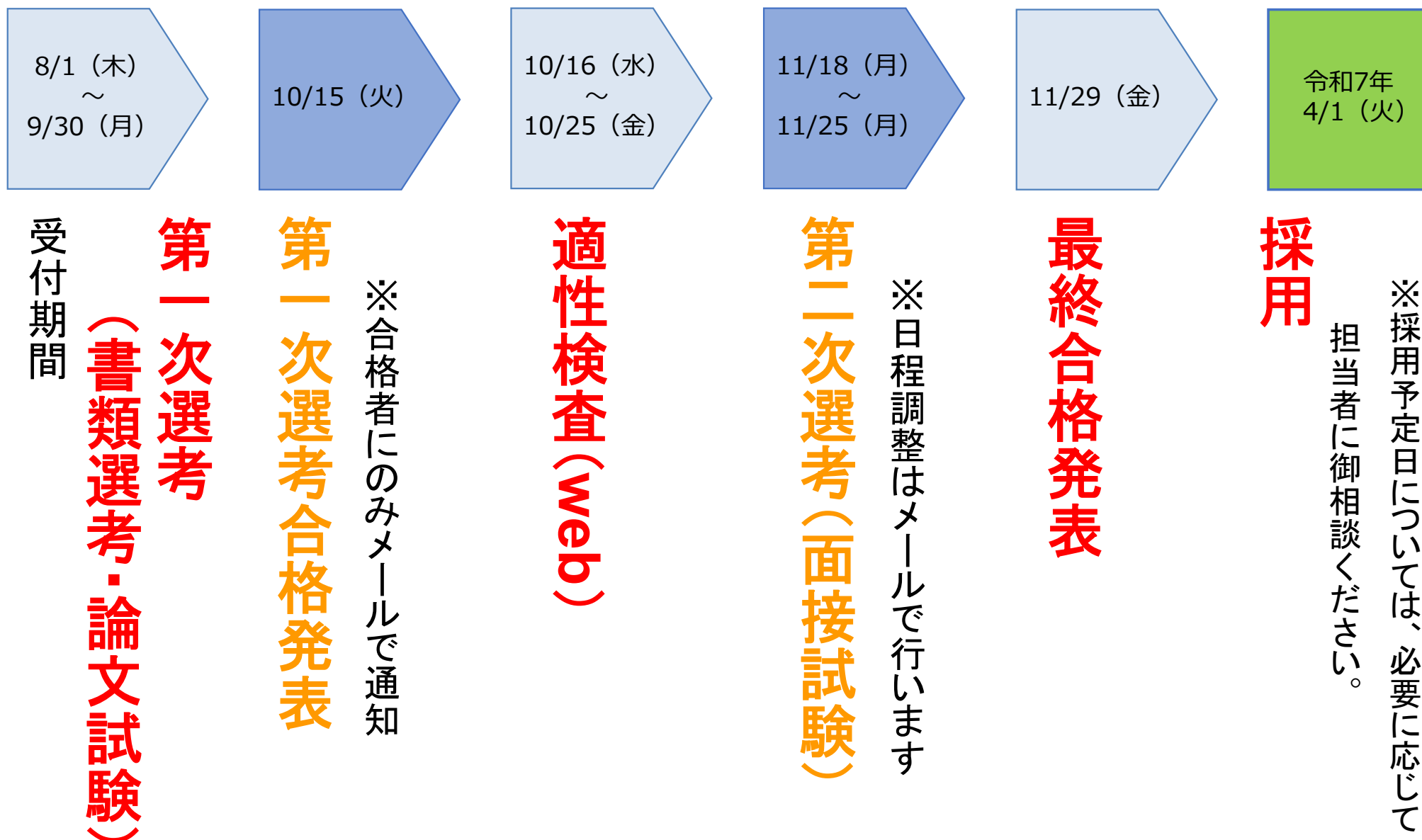
近畿農政局採用実績（一般職係長級（事務系））

近年は、採用時の配属先として、総務課や会計課での内部管理業務のほか、消費・安全部や生産部などの政策を実施するための業務でも活躍していただいています。

選考採用試験（一般職係長級（事務系））

採用年度	採用人数 (うち女性職員)	主な配属部署
令和2年度	2 (1)	企画調整室、会計課
令和3年度	10 (1)	企画調整室、総務課、会計課、生産部、経営・事業支援部、農村振興部、統計部
令和4年度	12 (6)	総務課、会計課、消費・安全部、経営・事業支援部、農村振興部、統計部
令和5年度	11 (3)	企画調整室、総務課、会計課、生産部、経営・事業支援部、農村振興部、京都府拠点、南近畿土地改良調査管理事務所、和歌山平野農地防災事業所
令和6年度	6 (3)	生産部、経営・事業支援部、農村振興部

採用スケジュール（令和6年度選考採用）



※詳細は近畿農政局HPの採用案内を御覧ください。

今日お話すること

1. 農林水産省が取り組む課題
2. 農林水産省のミッション
3. 農林水産省の職場環境
4. 採用案内
5. （参考）近畿農政局選考採用職員紹介



廣中 栄喜

R4採用 総務課情報セキュリティ係長

皆さんへのメッセージ

学生時代から持っていた「誰かのために何か役に立ちたい」という思いと、今までデジタル分野で培った「経験やノウハウを公共のために活かしたい」という思いから、公務員を志望するに至りました。みなさんも公務員として働きたいと志望される方が多いと思います。選考試験においては、そうした自身の「思い」を素直に言葉で伝えることも大事ですが、経験者として前職での経験を農林水産省でどう活かしていくことができるか（活かしていきたいか）を伝えられると良いかと思います。近畿農政局の新たな可能性、それは、様々な経験を積んだ「あなたたち」です！！

～幅広く経験を積める面白さ～

Q1 今担当している業務は？

近畿農政局総務課にて、情報システムやセキュリティに係わる運用（問合せ対応・サポート、職場システム環境整備等）を主に行いながら、総務としての様々な業務に従事しております。これからは特にデジタル分野のスキルが求められることもあり、非常にやりがいを感じられるとともに、デジタル分野以外の業務においても、主担当として業務を任していただける職場なので、幅広く経験を積める面白さは格別です。特に、総務課はたくさんの職員と係わる部署であるため、積極的にコミュニケーションを図ることで、「縁の下の力持ち」となれるよう心掛けています。

～地方の農家にまでもっとデジタル化を普及させるために貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿農政局を志望した理由として、農林水産省は、スマート農業をはじめ多くのデジタル分野に力を入れており、少子高齢化が顕著に見られる地方の農家にまでもっともっとデジタル化を普及させるために貢献していきたいという思いから志望しました。将来像として、特に、デジタルに慣れ親しんでいる世代の若者が積極的に農林水産業に参加してもらえるような若者への発信、そして、若者から農林水産業にアプローチされるようなインタラクティブな社会全体に変えていければと思っています。

～気さくな方が多く、どんなことでも相談をしやすい～

Q3 職場環境について

正直、「公務員は頭が固い」というイメージを持っていましたが、全くそんなことはありません。上司や先輩の皆様は、気さくな方が多く、どんなことでも相談をしやすいのが第一印象でした。特に民間企業と比べるとギャップを感じる部分もありますが、積極的に上司や先輩に相談でき、かつ丁寧に教えて頂ける環境なので、確実に業務を覚えていくことができます。勤務時間は、開始時刻（定時）が8:30～であるため、民間企業と比べると少し朝が早いですが、時差出勤やフレックスなど活用することで柔軟に対応することができます。



（2022年度時点）



土井 貴司

R4採用 経営・事業支援部 農地政策推進課調整係長

皆さんへのメッセージ

選考採用の方々からすれば、前職での経験より当然のことかと思われるかもしれませんが、自分一人で行っている業務はなく課として行っているの、一人で抱え込まず、分からない時や不安な時は、遠慮せず周りに聞いたり相談してください。選考採用で採用されれば即戦力というイメージがあり、上司の業務の妨げになってはとの思いから相談して良いか迷われるかもしれませんが、決してそんなことはないの、安心して遠慮せず上司の方々に相談するようにして下さい。

～専門用語も理解できると面白みを感じる～

Q1 今担当している業務は？

農地政策推進課という部署で、農林水産省が所有する農地等の土地を各府県と連携し、管理・貸付・売払等を行う為の補助金業務や貸付料や売払金等、相手側より徴収した金額が収められているか確認し、本省や会計検査院へ毎月報告する業務を主に行っています。

前職では、聞きなれない言葉や用語が多く、また似たような言葉や用語でも意味が異なり、理解するのに苦労しましたが、業務を通じて理解できた時は面白みを感じました。

仕事をする上で心がけていることは、基本的なことですが、一人で抱え込まず、分からない時は積極的に周りに聞くこと、報告や提出期限を厳守すること、不安に感じたことは些細なことでも報告・連絡・相談を欠かさないことを心がけています。

～前職で感じた食や農業の課題により深く取り組みたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

前職で様々な業種と接する中で、食や農業をしている方々は他の業種と比べて、非常に多くの悩みを抱えていることを目の当たりにし、食や農業に関わっている方々の悩みを解決したいと思ったのがきっかけでした。前職でもそう言った悩みに対する解決が全く出来ないという訳ではありませんでしたが、取組める活動に限界があったことや活動を通じてより深く関わりたいと感じたのが志望した理由です。

皆さんが購入している様々な物の中で、特に口にするものは、海外産よりも国内産を求める方が多いと感じる一方で、国内の自給率は高くありません。皆さんが求めている物を安定して取得できるよう、農地集積・集約化等を行い、新規就農者が参入しやすい環境を整え、自給率増加に貢献できるような活動の一翼を担って行きたいと思っています。

～質問しやすく、安心して業務に取り組める環境～

Q3 職場環境について

分からないことがあった際、上司に相談すると気さくに応じて下さり、聞きやすい雰囲気も作られているので相談しにくいと言ったことはなく、安心して業務に取り組める環境です。

週に2日、定時に退庁する日があり、自分の業務の状況に応じて残業するか決めることができ、前職より残業時間が減った分、自分の時間に費やせるようになりました。

休暇は積極的に取るように促進されており、連休の間に休暇を取得し、大型連休とすることもでき、非常に休暇を取りやすい環境です。



(2022年度時点)



田中 啓子

R4採用 統計部 調整課統計調整係長

皆さんへのメッセージ

私は前職が別の職種で不安でしたが、農業関係ではない学歴や職歴であってもここで働きたい理由や、これまでの経験をしっかり面接で伝えることが大切だと思います。実際に半年働いてみて、分からないことは丁寧に教えて頂いたり、研修制度も充実しているので問題無く働いています。前職に比べて仕事とプライベートが両立出来ているところも、私にとっては転職をして良かった点です。ぜひ、近畿農政局のことをたくさん知って頂いて積極的に入省を希望して頂けたら幸いです。

～業務を通して統計に関する知識も学ぶことが出来る～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、統計部調整課で主に統計調査員手当に関する事務を担当しています。統計部では「食」に関する川上から川下に至る様々な統計調査を実施しています。地方農政局や都道府県拠点においては職員以外に調査員が調査を行っており、調査を行った調査員への手当や調査にご協力頂いた農家さん等への謝金を支払うための書類の作成やチェックをしています。

毎月、支払のスケジュールが決まっていることと、近畿内の各拠点の取りまとめを行うので支払日までは緊張感をもって取り組んでいます。業務を行う中で分からないことが多々ありますが、お金に関する事務なのでどんな些細なことも確認しながら行うことを心がけています。緊張感を持って責任のある仕事を行う中で、統計に関する知識も学ぶことが出来るのでとてもやりがいを感じています。

～前職とは異なる新しいことに挑戦したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

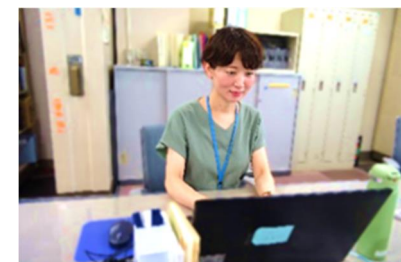
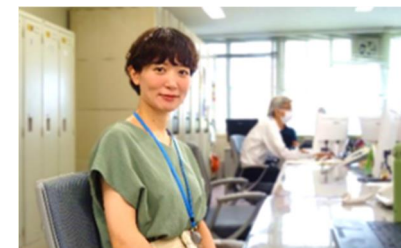
前職は全く別の職種でしたが新しいことに挑戦したいと考え、その中で自分の興味がある「食」に関する様々な仕事に携わることが出来る近畿農政局を志望しました。また、福利厚生も充実しているので、仕事とプライベートを両立しながら働くことが出来る点に魅力を感じました。近畿農政局には様々な部署があり、転勤が2、3年ごとにあるので多種多様な仕事を経験し、その中で自分がやりたいこと興味のあることを見つけて成長していきたいです。

～職員が働きやすい環境が整っている～

Q3 職場環境について

業務内容や専門用語は社会人経験があっても初めてのことばかりで、経験者採用なので何でも聞いていけないと思っていたのですが、優しく親切な上司の方々や前任の担当者に恵まれて、分からないことは一つ一つ丁寧に教えてくださるので安心して働くことができています。

また、有給休暇を職場の中で取得しやすい雰囲気や、テレワークで仕事が出来るといった点など、職員が働きやすい環境が整っていることが非常にありがたいと感じています。





井阪 順也

R5採用 南近畿土地改良調査管理事務所
財産管理課財産管理係長

皆さんへのメッセージ

皆さんには、それぞれの強みや得意なこと、信念や実現したい夢などがあると思います。そんな想いや熱意をご自身の言葉で伝えることが、とても大切だと思います。

私には、1歳の子供がいるため、計画的に年次休暇を取得し、テレワークやフレックスタイムも活用して、仕事と子育てに充実した日々を過ごしていますので、農林水産省に転職して本当に良かったです。

農林水産省の職員として、皆さんと一緒に働ける日を心からお待ちしております。

～住民の安全のために活動する責任のある仕事～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、近畿農政局の出先機関である南近畿土地改良調査管理事務所の財産管理課に在籍しております。

当事務所では、国営事業を実施するための調査計画・全体実施設計、国営事業で造成した施設の長寿命化を図るための調査・検討を行っており、また、国営十津川紀の川土地改良事業で建設した大迫ダム、津風呂ダム及び下淵頭首工の直轄管理も行っております。

このため、大雨の際は、ダムから放流を行う必要があり、放流直前に下流河川への入川者や住民の安全のために警報車による警報活動も行っており、私も初めて参加した時は少し緊張しましたが、非常に責任のある仕事だと思いました。

現在、私は、有期限（50年等）で設定されている地下に埋設した農業用水路の地上権の期間更新に向けて、登記簿の名義変更及び地目変更の有無、地籍調査の実施等の調査に携わっております。

～暮らしに欠かせない「食」をつくる農業者を支援したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿農政局を志望した理由は、私たちの暮らしに欠かせない「食」をつくる農業者を支援したいという想いがあったからです。

入省前のオンライン業務説明会では、和やかな雰囲気の中で、近畿農政局の業務内容や役割などを知りました。質疑応答でも丁寧に回答していただき、職員の方が、公務員の仕事に誇りと熱意をもって業務をされていることに魅力を感じたのも志望動機の一つでした。

将来は、農林水産業の課題である食料自給率の低下を改善するために、農産物の生産基盤の強化・消費拡大の推進や、若い方の新規就農の促進にも携わりたいと思います。

～研修制度が充実していて、周りに聞きやすい～

Q3 職場環境について

職場環境は、業務説明会で聞いた「研修制度が充実していて、周りの方に聞きやすい環境」という内容通りでした。

私は、民間企業からの転職で、すぐに業務を覚えられるかが不安でしたが、分からないことを上司や同僚の方々から丁寧に教わり、安心して業務に励んでおります。

また、農政局主催のOJT研修や職場のOJT研修も多く、わかりやすく丁寧に教えていただけるので、とてもありがたいです。





前田 育也

R5採用 農村振興部 都市農村交流課地産地消推進係長

皆さんへのメッセージ

選考試験を考えておられる方は、限られた時間の中での、活動となると思いますが、説明会や企業研究など、なるべく広く情報を取り入れ、色々と行動を起こしてチャレンジされるのをお勧めします。

年齢制限等もある場合もあるので、期間を決めて、その中で精一杯ベストを尽くし、自分の今までの経験に自信を持って、想いの丈を真っ直ぐに伝えていただくのが、良いかと思います。悔いを残さないように頑張ってください。

～現場の方々の想いを支援できる仕事～

Q1 今担当している業務は？

現在は、都市農村交流課という部署で、各府県と連携し、地域活性化のための活動計画づくりや支援・補助を行うための補助金手続き等、また新たな価値を創出する農林漁業者の取組等を支援しています。要綱・要領の把握や、施策の理解等難しいものも多いですが、不安を感じたり、分からない時は積極的に周りに聞き、先輩・上司・関係者との密なコミュニケーションを心がけて、報告・連絡・相談を大切にして業務に取り組んでいます。

他にも、事業者の方たちとも直にお会いし、直接お話を聞ける機会も多く、情熱を持った様々な取組や事業への想いを共感することができて、非常に勉強になっております。また、そういった現場の方々の想いを支援していくという初心を忘れずに、業務に取り組んでいきたいと思っています。

～地域資源を活用し、地域の活性化に取り組みたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

前職の旅行会社に勤めていた際に、地域の行政の方と連携して、町興しなどの地域活性化事業に取り組んだ経験がありました。近畿農政局の説明会に参加した際に地域資源を活用し、地域の事業者を支援し、地域の活性化に取り組まれていると知り、ここで貢献したいと思い、志望いたしました。

常に現場の人たちの立場に立ち、常に現場の人たちの想いを汲みながら、もっと就農者が取り組みやすく、働きやすい環境となるべくサポートし、地域活性の一翼を担っていくという初心を常に忘れずに、常にベストを尽くして業務に取り組んでいきたいと思っています。

～相談しやすい雰囲気、サポート体制の充実～

Q3 職場環境について

分からない時や行き詰まった時は、上司や先輩方に聞きやすい雰囲気があり、業務の対応についても気軽に相談できる為、安心して業務に取り組める環境です。

また、研修の機会も多く設けていただき、基礎的な知識から就業規則等まで幅広く丁寧に教えていただけますし、同期との接点も多く作っていただけますので、サポート体制も充実していると思います。休暇に関しても積極的に取るように推進されているので、プライベートの時間も取得しやすい環境だと思います。



(2023年度時点)



住吉 雄太

R6採用 経営・事業支援部 輸出促進課輸出証明支援係長

皆さんへのメッセージ

私は、前職が別の職種のため、すべてが未経験に近い状態での入省となりましたが、自分の強みや日本の農林水産業への思いなど、未経験でも貢献できる点を面接で伝えることが大事だと思います。また、近畿農政局は年齢層が高めな傾向ですので、ExcelやPCに少しでも詳しいと非常に重宝されると思います。

一緒に日本の農林水産業を盛り上げるお手伝いをしていけたらと思いますので、少しでも興味を持てば、苦手意識を持たず、是非挑戦してみてください。

～日本の農林水産物・食品の輸出をフォローアップする業務～

Q1 今担当している業務は？

現在、輸出促進課において、日本の農林水産物・食品の輸出目標である2025年に2兆円、2030年に5兆円を達成するため、近畿農政局管内の輸出に取り組んでいる、取り組みたい事業者へのフォローアップ業務を主に行っています。様々な事業者との意見交換や相談の場に立ち合わせていただき、少しでも力になれるように日々勉強しながら業務にあたっています。

まだまだ分からないことが多い状況ですが、苦手意識を持たず、何事も前向きに業務に取り組むようにしています。

～輸出入の現場で様々な悩みがあると痛感、より幅広く支援したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿農政局を志望した理由は、前職で主に水産物の輸出入に携わっていた際、各事業者が様々な業務や手続きにおいて悩みを抱えていることを痛感し、より幅広くお手伝いをするのができないかと考えたことがきっかけです。

2, 3年ごとに異動があるため、今後は輸出だけでなく、農林水産業に関わる業務を幅広く経験し、自分の強みを活かしながら、日本の農林水産業の発展に貢献していきたいです。

～新たな知識の習得をしたい方は積極的に活用できる環境～

Q3 職場環境について

業務の進め方はもちろん、専門用語や文書の作成方法も、今までとは大きく異なり、社会人経験があっても戸惑うことが多いですが、不明点や不安なことは、上司や同僚に気兼ねなく聞ける環境なので、非常にありがたく感じています。

また、私自身子どもが小さく、突発的に休暇が必要なこともあるのですが、課内で休暇を積極的に取るように周知されており、休暇は取得しやすい環境だと思います。

本省主催の研修に参加することもでき、新たな知識の習得をしたい方は積極的に活用できる環境だと思います。





赤坂 友香

R6採用 経営・事業支援部 食品企業課連携係長

皆さんへのメッセージ

私は入省前に説明会のほか、近畿農政局主催の「和食・食文化シンポジウム」や「食育セミナー」などに参加し、入省後に取り組みたい仕事のイメージが明確になりました。面接でもその気持ちを伝えることができましたので、各部開催のセミナーに参加するのも良いかと思います。

また、私には3人の子どもがおりますので、農林水産省のビジョンステートメントである「生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を未来の子どもたちに継承していく」仕事に携わることができて、母としてもやりがいがあり、入省して良かったと感じております。

ぜひ農林水産省で、一緒に日本の未来の「食」を創りましょう！

～関西の食や食文化の振興につながるよう心掛けながら奮励～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、食品企業課で「関西 食の「わ」プロジェクト」を担当しております。

このプロジェクトでは、関西の農林水産業や食品産業の振興・次世代への継承を図るため、関西の食や食文化を国内外に発信する活動を募集しています。私は、この募集に係る業務や、「関西 食の「わ」プロジェクト」として認定された活動を、HP、Instagram、メルマガ等で御紹介しており、関西の食や食文化の振興につながるよう心掛けながら奮励しております。

日々の業務では、多種多様な業界・世代の方々からお話を聞き知見を増やせる楽しさと、プロジェクトを推進していくやりがいを感じております。

～「食」を通じて国民の食卓を支え、「食育」により国民の健康寿命延伸に貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

「食」を通じて国民の食卓を支え、「食育」により国民の健康寿命延伸に貢献できる仕事に強い魅力を感じ、志望いたしました。

現在担当している「和食文化の保護・継承」は、健康食ともいわれる「和食」の普及を推進することで国民の長寿や健康維持にも役立つと考えております。

今後は、前職での商品開発や管理栄養士としての経験を活かして、現場から国民のニーズを収集し、消費者に寄り添った施策を行えるよう必要な判断力やスキルを身に付けていきたいです。

～幅広い政策課題に係る業務に対応できるよう、セミナーや研修制度が充実している～

Q3 職場環境について

職場は気さくで優しい方が多く、業務についても丁寧に教えてくださり、尊敬する上司や先輩にも恵まれ大変感謝しております。

また、農林水産省は「食」を中心とした産業政策・地域振興・インフラ・文化・外交等の幅広い政策分野を総合的に担っており、同じ課内でも多岐にわたる業務があるということを感じました。職員はこれらの幅広い政策課題に係る業務を通して国民の生活を支えており、この多分野の業務に対応できるよう、各種セミナーや研修制度も充実しています。

私も自己研鑽のため、積極的に参加しております。



御覧いただきありがとうございました！

- 近畿農政局の行政区分に関する情報は、近畿農政局HP、採用担当Instagramに掲載しています。

近畿農政局HP



採用担当Instagram



MAFF_SAIYOUKINKI

- お問い合わせ先（行政） 農林水産省近畿農政局総務課人事第1係
Mail: saiyou_kinki@maff.go.jp
Tel: 075-414-9032

御不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。